

第1回セミナー開催

ベタ基礎の問題点も指摘

日本住宅基礎鉄筋工業会

住宅用の基礎鉄筋技術の普及、標準化などを目指し5月に発足した(中)日本住宅基礎鉄筋工業会(山口龍二理事長)では、7月26日東京・浜松町の世界貿易センタービルの3階会議室で

第1回講習会を開催。会員企業のほかハウスメーカーやビルダーなどから住宅基礎に関心の高い技術者など110名が参加した。講師には鉄筋コンクリート造や住宅

基礎の権威として知られる東京理科大学工学部建築学科の松崎育弘教授を招き、「鉄筋コンクリート構造について」というテーマ講演があった。住宅基礎としてベタ基礎が普及しているが、その問題点も指摘され始めている。工業会では参加者に鉄筋コンクリート造の基礎知識を学んでもらうと共に、住宅基礎として鉄筋コンクリート造を使う場合のポイント、今後のテーマをわかりやすく解説した。

講演で松崎教授は、「最近の基礎工事では、現場で土をあまり出さないようにするため溝が浅くなってきている。15cm厚のベタ基礎でも36m以上に大きなベタ基礎を作ると中央部がたわみます」など具体的な問題点を指摘。参加者は熱心にメモを取っていた。工業会では第2回の講習会を9月に



講演する松崎教授

1157 住宅基礎鉄筋工業会 03-33353-
詳しくは 有限責任中間法人・日本